

550.85 : 553.31 : 553.43 (521.85)

山口県喜多平・長登両鉱山地区鉄・銅鉱床調査報告

昭和28年8月4日から4日間にわたり、山口県美禰郡喜多平・長登両鉱山地区の鉄・銅鉱床を調査した。

喜多平鉱山は美禰郡大田町長登と赤郷村との境界附近にあり、長登鉱山は長登地内の花の山南麓を占めている。

本地域には石灰岩を交代してスカルン鉱物を伴なう多くの小規模の黄銅鉱鉱床があり、石灰岩中のものはおむね硫砒鉄鉱・磁硫鉄鉱に富み、2次的に褐鉄鉱を生じて褐鉄鉱鉱床を形成している。火成岩に接する鉱床は種々の随伴鉱物を伴ない、特に硫コバルト鉱・灰重石が多い。おもな鉱石の概要は下記の通りである。

1. 喜多平鉱山地区 梅ヶ峠鉱床

a. 褐鉄鉱鉱体, Fe 38~54%, おむね As 0.7~1.5%を含む。

b. 硫化鉄鉱体

(1) 塊状鉄鉱: 硫砒鉄鉱・磁硫鉄鉱・黄銅鉱・鉄閃亜鉛鉱等, Cu 1~3%, S 23~30%。

(2) 酸化鉄: 赤銅鉱を主とする小塊が土状鉄と混在する。塊鉄: 最高 Cu 30%, 平均 Cu 10~17%。  
土状鉄: Cu 2.5~4%。

2. 長登鉱山地区 鳥帽子鉱床

a. 本鉱体 黄銅鉱・磁硫鉄鉱・方鉛鉱・閃亜鉛鉱等。局部的に輝蒼鉛鉱を伴なう。石灰岩中に灰重石が多い。鉱床の下盤側に硫コバルト鉱の小集合部があり、出荷鉄の品位は Co 3%である。粗鉄品位 Cu 1.5~5%。

b. 西鉱体 黄銅鉱・磁硫鉄鉱がおもて、それ以外に硫化鉄物がほとんど含まれない。粗鉄品位 Cu 1.5~2.0%。

一般に褐鉄鉱鉱床には約1%内外の砒素分を含み、硫化鉄体は含銅平均品位が低い欠点があるが、選鉱方法の改善を行い、硫化鉄体については各鉱体とも積極的な探鉱が望ましく、また一方鳥帽子鉱床についてはコバルト鉱も併せて稼行する必要がある。

(調査: 上野三義, 抄録: 宮本弘道)

550.85 : 553.32 : 553.43 (521.12)

岩手県桐松鉱山・普代鉱山・三根鉱山鉱床調査報告

昭和28年9月15日から20日間にわたり、岩手県下の桐松および三根両鉱山のマンガン鉱床と普代鉱山の銅鉱床とを調査した。

1. 桐松鉱山は九戸郡野田村の南東隅、下安家部落から北東方直距離約3kmの安家川上流に位置する。地質は古生層(中生層?)およびこれを貫ぬく花崗閃緑岩からなり、古生層に属するチャート質岩層中に胚胎し、走向および傾斜は母層のそれと一致し、レンズ状の鉱体からなる。おもな鉱体は安家川地区の3鉱体とツツベ沢地区の2鉱体とで、鉱石はおもに菱マンガン鉱・テフロ石・バラ輝石等のマンガン鉱物からなる。見込品位は Mn 36~40%である。鉱体の規模は延長10~15m, 最大幅 0.2~1mである。有望な鉱体は安家川地区の第1号鉱体およびツツベ沢地区の2鉱体である。

2. 普代鉱山は下閉伊郡普代村の北部に当り、北沢の上流、国道から南西方直距離約2kmの所に位置する。鉱床は黄銅鉱を主とする接触交代鉱床で、花崗閃緑岩との接触部近くの古生層に属する石灰岩層中に胚胎する。おもな鉱床は南鉱床および北鉱床である。これらの鉱床は9つの堅坑および水平坑道によつて探鉱されているが、多くは水没または坑口が崩壊し、賦存状況の詳細は

明らかでない。入坑できる坑内の状況によれば、南鉱床は80°NWの傾斜を示し、スカルン帯中に不規則な脈状ないし塊状をなす鉱体からなり、見込品位は Cu 8%である。北鉱床に関しては坑内の踏前にスカルン帯を認めたとにすぎない。坑外の捨石によれば鉱石鉱物は黄銅鉱を主とし、多量の黄鉄鉱および少量の閃亜鉛鉱を伴っており、採取試料の化学分析結果は Cu 10~17%を示している。本地域内に大規模の鉱床は期待されないが、Cu10%以上の鉱石が存在するから今後探鉱の価値はあるものと思われる。

3. 三根鉱山は下閉伊郡普代村普代の南東方約5kmの普代川河岸に位置する。地質は中生層およびこれを貫ぬく花崗閃緑岩からなり、中生層は変質を受け、ホルンフェルス化し、走向はN-S~N30°W, 傾斜は40~60°Wを示す。鉱床は中生層に属するチャート質の岩層中に胚胎し、4つの主要鉱体からなる。鉱体の規模は延長20~30m, 幅1~1.5mである。鉱石は主としてテフロ石・バラ輝石・菱マンガン鉱等からなり、見込品位は Mn 30~35%である。今後探鉱の余地のある鉱体は第1号坑鉱体および第2号坑鉱体である。

(調査: 奥海 靖, 抄録: 宮本弘道)